

題目 信頼はどのように獲得されるのか：信頼の汎化過程に関する研究

氏名 下神田茜

指導教員 竹澤正哲

社会的存在である人間にとって、他者との協力行動において信頼は重要な概念である。最近の行動遺伝学の研究によれば(Strugis et al., 2010)、双生児の比較により、信頼には遺伝的影響もあるが、非共有環境が大きな影響を及ぼすことが示されており、また実験経済学の知見では(Engle-Warnick & Slonim, 2004)、同じ相手と信頼ゲームを繰り返すと信頼は低下するが、相手が変わると信頼が回復するという研究も存在する。更に小杉・山岸(1998)の研究では、高信頼者はどんな相手でも信じてしまう騙されやすいお人好しではなく、むしろ他人の信頼の情報、特に信頼の欠如の情報に敏感に反応するという結果が示されている。それではいったい、信頼とはどのようなメカニズムで獲得されるのか。この問いに答える足掛かりとして、本研究では他者の相互作用からの信頼の学習と汎化に関する研究を行った。実験は Engle-Warnick (2004)の行った繰り返しのある信頼ゲームのデザインを大枠として、それに加え①被信託者をコンピュータープログラムとしてその行動を操作することで相手の行動が及ぼす影響、②一般的信頼と裏切り嫌悪を測定してこの2つの要因が与える影響について検討した。その結果、特定の相手との相互作用の影響が、その後の別の相手との相互作用において示された。この影響は、相手が信頼できる条件でも信頼できない条件でも現れたが、信頼できる条件においてより強い影響を示した。従って、本研究を通じ、信頼は相手との相互作用の経験により汎化される可能性、また不信よりも信頼において汎化が起きやすいという可能性が示唆された。また、信頼できる相手とゲームを行う条件において、一般的信頼が低い場合に預託額が高いという、これまでの知見とは異なる結果も得られた。これは、今回の実験において予測しなかった、信頼の欠如情報が存在していた可能性が残されてはいるものの、今後の信頼研究に対して興味深い結果となった。